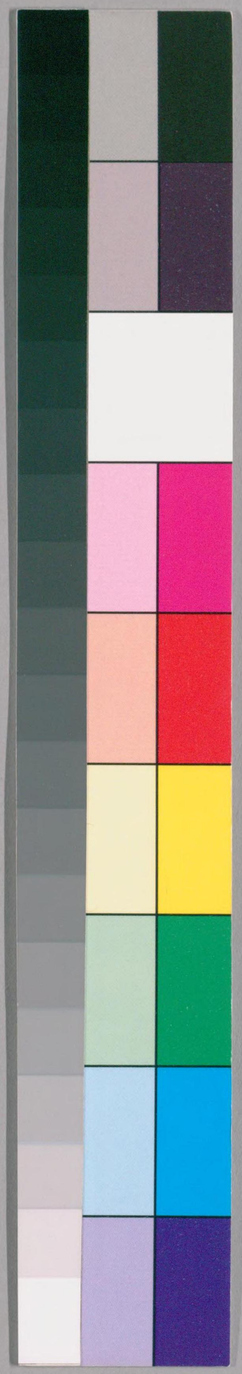
830
30
107



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

# うつほ物語

菊の宴 二止

古本九の巻

今板本六の巻ニ

830
帝国
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

嗚呼忝なくも

大正
4. 7. 20
購求



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

巻十一

大正
4. 7. 20
購求

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

古今集
なかの
ふみをかけ
ながさ
なりけめ

にこそもうでたまふなりいまはそれ
それをぬきてとくおれ
月をなんこそ
なほせんこと
ここのあれ
ろくもの
えなほ
川
たのまじ

なみきふいうる
えのさくこ
うりけれ

やれとこそ
ありそ海
ろのの
え
ありそ
重
ふりそ
人
あ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

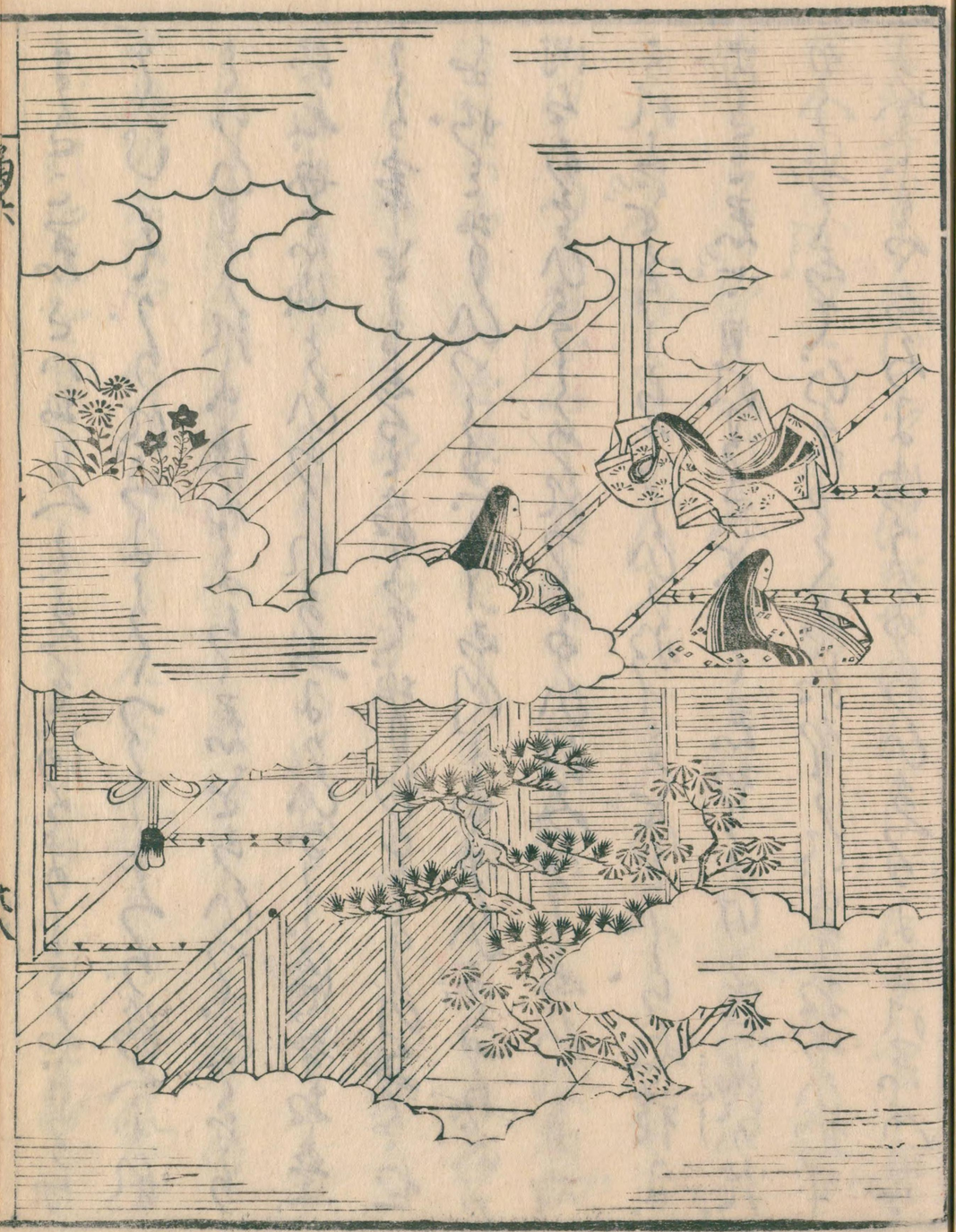
ガラス使用

古ニノガスハヨモックスト云

こゝろてごろうそくしらせ給ふ。ぬき
ゐたる所のまつをとりてそこなる
かゑるくくのもとのこゝろみとれとよる。
をとゝせくくうゐくゐあそひをつゝ。保寧れよ
ろこひよりうれいめうことを
りゐそありもさうめやといみく
ゐうんざくもあさこいうれそめ
ゐこゝろをまつりて。寧れをよいうよりよら
むとゆりわくて
をとれ男ゐ女をいるみくゐと
ゐうものうゐうれぞよいうよりよと云



ものうゐうむ。よさこはうすゐ
いてありて。うとれうみ給てあさ
りうよあさこ君。十三巻なり。やさ
こゑれうくあゐうのこゐくおうそゐもを
そ。りのもうそうゐよ。てゐ
よいあをひみて時うこそふう
こあをよてそ君よをとありれ
そゐうくゐうゐぬ沸うとうもう
ふいあをくゐうくうくあれ
ゐうくうくあれ。まれそうくゐ人な
ゐれをゆりくうそたくよりり



ロメトミカライフカヤ
ミノ城カミ八源氏ニ
モミヤトイハレタ例
オホカルヘシ

まさこ君さいはひ人と、えうしうまうけ給へ
うむそうけうにようくつうまうけ給へ
とのひまうけよ。ほうびよりつ。なくなり
給よ。母君海よりひかうれまうて
うる事をもまうけ給そ。物
よりまうてひつ。ものうもの
時なひうつくしめれつ。まめ
これらのよりうそこひうれ
まうこ君の七日れまうをよりつ
りうぐつて。ひえみうくうち給
まうとこやうろうよ海うまめ

さまうてぐかひうよにおやの
一人あるかおのこうちうまうを
ほくまうり。ひと山れ人うちう
まうてれまうさまうひかし源宰れた
みかくうちうまうこと水君れの
さをいうち給まうくてれこ
まうれうち給こ山方むうまう
よ。ろあうまうりまうみをれ
うれまうこうのの人うこ
中将の君ひうんれむのうん
と。これ山方をせうにうえ給
ろくうまうこ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

のてうこんにほうひもとゝくゝ
れおきまゐよのおよみれに女人ゝゝうゝうゝ
ゐ人ゝゝゝ

長柄　摂津西生郡

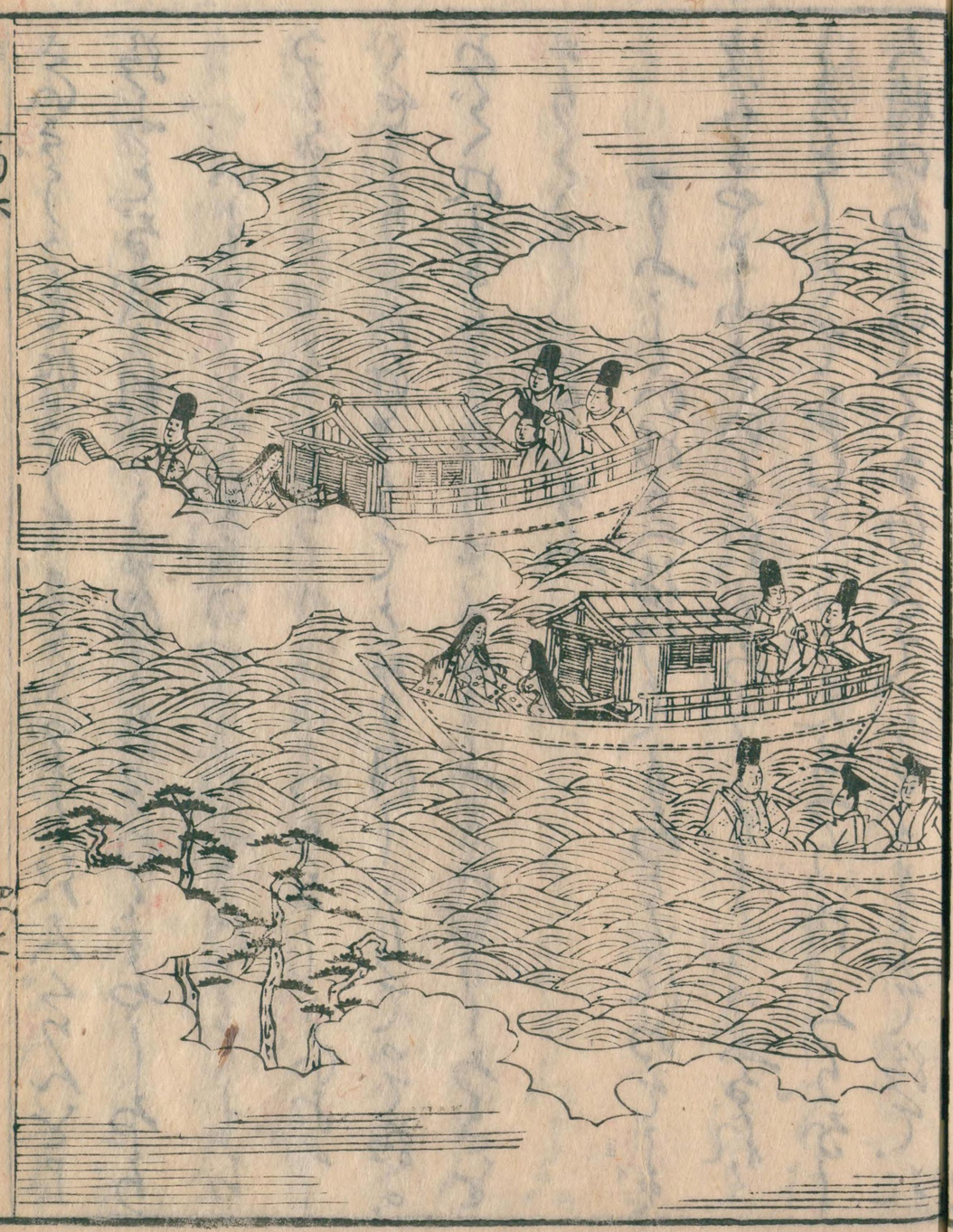
古今集

文迂 秋風辞 経楼船兮濟汾河横中流兮揚素
波簫鼓鳴兮発棹歌 注云棹歌引棹而歌
三輔黄図 昆明池中有豊国象南北各営寸法舟池
中張圖益建華旗作棹歌歌記新人歌也又曰一

祝詞

調

源



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

秋冊子ニ名おそろしもの
ひちりさ㊁トミユ
六帖
いもせのつりすき
うつつひちりさ
あまのこもあまのこもせん
催馬樂
いもせのつやせな
うえぬきをうえ
てやるめゆゑひちり
うえの㊁もあり
なんとそてこそを
㊁やとりてまろうんと
そてこそを
源氏須ノ
ひちりさ㊁とも
なりぬ
なをあもそれ
万葉十一
ものとも
の㊁まふぬふそ
とまふぬふそ
あるを浪れる
てひちりさ㊁と
いもせのいろきこ
ろもうら野昭活
楊をくゝり
とりとそ
詞の

古若立
モロコレモ友ニミシハ近リ
千恵ニ中ハルケアリケル

日ヨ
源イ
そいきそうもにまうそまく
給ふおそれ給れうまうし
いもせおそれ
うるおことをそそめ
そもりこりまうてそ
おぐれそりよおりもやま
をりくくそしまふ
まふこいおりへ
けるやまおのれ
のこのれりこりまれそ
のこのりこりまれそ
大将のめいくるけそて
給れ

袖中抄卷一云ひちりさ㊁ハ百物をおそろしといふ心也ひちりさ㊁とはおそろしきものゝ名也
類聚名義抄 畏怖ニナカサヌ
口由好ニコハ誤ソ
曲ハ借ヲヒリノテ
ヨヒ

そてまて七日
そうつて
そんこと

ものとあり
のうんうそ
みそまふ
ぐそまて
にそしおを
まを所あれぬ
をおほそ
めりうそ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107
ガラス使用

ひぢのさこ
枕冊子に名おそろしきものひぢのさこ
六帖
いもせのつりすきうつぼつひそくきあまそうくもせん
催馬樂
いもうつやせなうつぼやきまろうてやゆゆしうさの
なんどいてこそうつぼやとりてまろうんと
源氏須マ
ひぢのさこ
ふうもきていてあるをなどいとそれかとあるもそれ
万葉十一
ものとりなさの
の
をそうもぬのそ
あるを
てひろうさこ
いてきこそうもう野昭法
とれをとりて詞の
なり

口古意五
毛ヲコレモ左ニミシカハ近リ
千慮之中ニ化ケカリケル

日注 源イ
さいそうもにまうてまくいつそうんとや
おもとおれうもおもくおれそやうもう
いもをおうて雲のやうもうるおそをそそめ
そもりそけまうてそおもりてそおもぐれそうよおうもやきぶされりうそを
をりうくくそそまよ
まよこいめうへけそ
けそうやまよ
このそうくて
大将のおり



おそ事をうそう地ないケうらんをそて七日
(マヌニ)
うこもりおくひそたそうんうそやうん
(イタシ)
よまるうくいのうれおうんうそやうん
(ウイ)
(トン)
ひそたうまるを
(オイ)
(ウイ)
(ウイ)
(ウイ)
黄金
そのうそあうそまくそうのこおうんいのうれおうんうそやうん
(ウイ)
(ウイ)
(ウイ)

時よ。右大将のあ(ま)三条(でう)の
なりてえよろこえてて
よ。あるとくぐもりくん。地(ち)をれ
くくてしまう
地(ち)よりれをてみ神(かみ)を
ク世(よ)はるうとかるとくる
みまて。地(ち)もの名(な)を涙(なみだ)。中(なか)
くの名(な)へるをにつのたく
かれ。のつ(つ)てをてゐ地(ち)
ひくうをのすこ(ま)ずるまく
えまく(さいく)ひてそよのく

いくくりひてこえ給(たま)ふるのあ
うくのをくう(ナシイ)(ナシイ)ノ(ナシイ)ふくんでや給(たま)
いまを給(たま)へ(ら)ん(ナシイ)ふ(ナシイ)月(ナシイ)よ(ナシイ)ふくく
ニてまうくんみをくんし中給(たま)
なくのとふかりの大(おほ)うんやて
かえまうのく。中(なか)ねうさ
くまうねてものうれ
あやしくとし月(つき)うまに
まくえ。ののうのく。神(かみ)
やうくく。ふ(ら)ま(ら)ま(ら)
とすんでやうう(ら)乃(の)幸(さち)

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

口後宮ノ女ニシリ人ノ庭ト
モイヘルオナシコト本詩集
巻一廿四ノ一躰異トキコエ
廿七ヒトイヘルオナリ石メス
ヲヒサクストテ一ムスヒキ

ニシリ人ノ庭ノ石ナニヒロ
心アリエカサテトレ

口白氏新楽府 海漫々
童男童女一舟中充

山と聖そもる給うこと
こころ汁地とおえあるか。まこ
風志五 右大弁宰相ノ
うの御ものにわく事もり
まこれいのちなりけり。たくこ
世の中をおもうあり
山ふところそめこもの
妻こと
うこみつくひなくこう
らをくせことるこさやよりさ
まりよくせんとこあ
のくこうもうせんえめ
しみをやとくこ
てこも

(甲)
(乙)
(丙)
(丁)
(戊)
(己)
(庚)
(辛)
(壬)
(癸)
(子)
(丑)
(寅)
(卯)
(辰)
(巳)
(午)
(未)
(申)
(酉)
(戌)
(亥)

(甲)
(乙)
(丙)
(丁)
(戊)
(己)
(庚)
(辛)
(壬)
(癸)
(子)
(丑)
(寅)
(卯)
(辰)
(巳)
(午)
(未)
(申)
(酉)
(戌)
(亥)

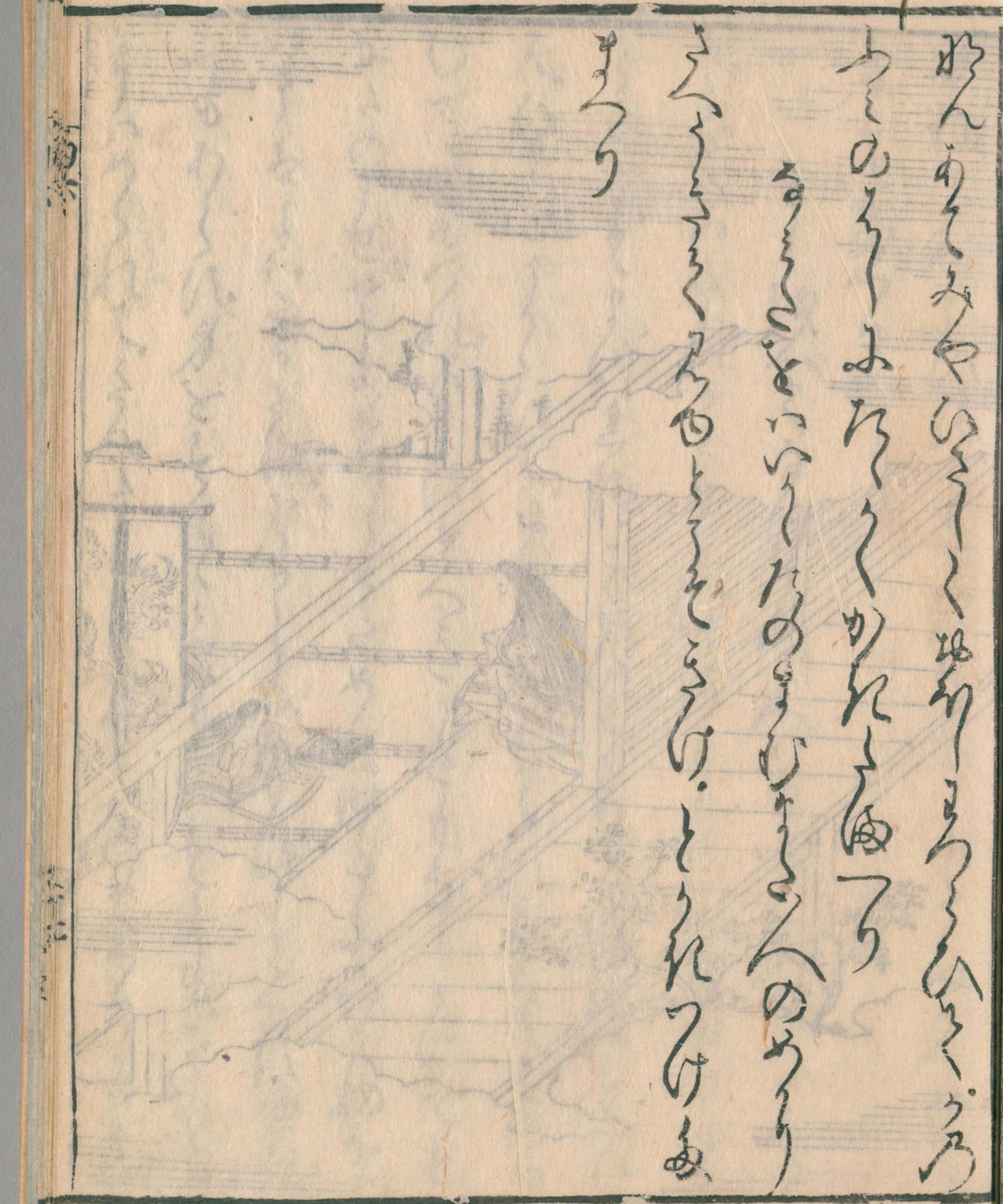
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

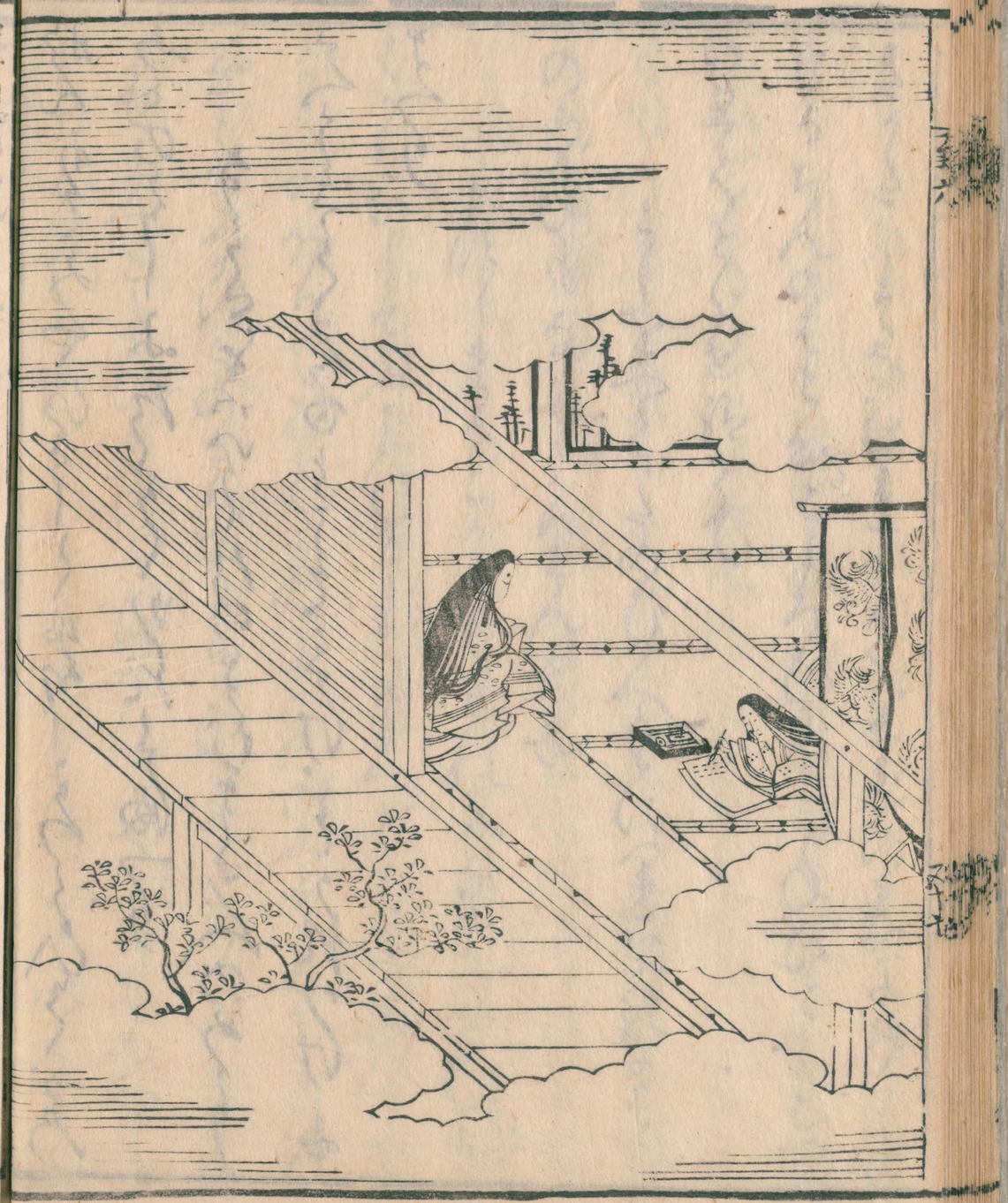
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用



宰相


雲のようにのぼりて
礼記曲礼下云ク
崩曰天王崩復
曰天王復矣注
曰始死時呼魂
辞也 疏云復招
魂復魂夫精気果
為身形為魄人
若命至終畢必
是精気離形而
臣子窮極之至
猶望復生故使
升屋北面招呼
死者魂令還復
身中故曰復也
若漫招呼則無
指的故男子呼
名婦人呼字令
魄識知其名字
而還云々

やうつもろもろのほとけ(ほとけ)つかうまつりたまへ
つとそらにおほえてくらゐけ(くらゐ)をもえ(え)
はなれたまはでこの(この)ましたまへ(たまへ)
きさい(きさい)にたちまち(たちまち)に源宰相(源宰相)をかけ(かけ)
たてまつりたまふ(たまふ)。ひとりのみかど(みかど)おはしまし
ける(ける)ほどに(ほどに)、堂(堂)の僧(僧)ども(ども)供養(供養)ぜむ(ぜむ)とて(とて)
屋(屋)の上(上)に幡(幡)を布施(布施)に(に)
うたせたまふ(たまふ)。ひとりの(の)
七日七夜(七日七夜)、堂(堂)のつま(つま)より(より)
まかでたまふ(たまふ)。

みかどくらゐ(みかどくらゐ)をさりたまひ(さりたまひ)ぬ。
つきせ(つきせ)ぬ(ぬ)ものは(ものは)なみだ(なみだ)なりけり
もろともにしぼ(しぼ)りしものを(ものを)
もろともにしぼ(しぼ)りしものを(ものを)
いろくろみ(いろくろみ)そ(そ)ぬれ(ぬれ)ける(ける)
きみ(きみ)こそ(こそ)あらしの(あらしの)山(山)
もろ雨(もろ雨)の山(山)もろくもみち(もみち)
いろくろみ(いろくろみ)そ(そ)ぬれ(ぬれ)ける(ける)
きみ(きみ)こそ(こそ)あらしの(あらしの)山(山)
ものをこそ(ものをこそ)おもへ(おもへ)
これのころ(これのころ)二人(二人)
ひめ(ひめ)そ(そ)
天人(天人)
秋風(秋風)

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

秋風ノ
ロ以下三句上モヨリニ
ワケル直前ヲ同ジ出テ
ウスベリ下向ヲウケ
ハニノアラス古今ノ奇
手跡モリケルナレハ
筆者ノ眤セルナルヘシ
秋風ノ下句人ヲヲコル
ルニヨセヒニ
見人ノ下句モテハ
見ノミシヤシケリ
ヒラシン下句風ヨリ外
ニリンスヘキナキ

なくよふこゝろくるしき人のまゝにおもひ
ふれのみぎりにおりて、わくらはにとふ
ことのはもなくてかへりぬるこゝろ
ちのみしてみちのくにまでもゆきたる
こゝちしてみちのくのことゝもをかきあつめ
うちながめゐたるに、ことのねのいとおもしろ
くきこえければ、
みちのくにてらやまをこえてきのくにの
あさ風のまつにはつれをきゝ。
めれと
むらしぐれするくる山さとのゆふくれに
つくらるゝかなくわさんのうりの源宰相うけ

やうとおひきこれに分かるを
誤て引よ入
もろもよおれ
油煙連高ニヤ



ことゝうりまゐりたまひて、ことゝ乃中納
ごよこうりて、ゆるしたまふことゝ
えたゞしくて源宰相うけたまはりて
もの給へ「やくそく」ことのひとく
ロヨニ語文ナシ
給ふ源宰相うけたまはりて
おりくとヨ
ゆるしもきこえたまはらひく
これをきゝたまはりて、ねをうちなき
ふみせんそ見給りて、これ
うちうちにをきゝ給ふ
そうそうにて、源宰相おもひ
こゝろをやりむとて、まいりたまひ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

こえそこいひつゝ
みくやいろよそおもて中将
凡秩下 左近将仲忠
山ひこもみ(ヒヾイ)をくさんをも
そこうらももれるみ(ヒヾイ)
つるよるこのつゝ(も仁)(ヘヾシ)(きと八)
もれ給て源宰相
さゝ(み)いそそくる
心ゝれとまるやそ中将
みくたれこりやわく源宰相
ひこもろもろこそ
てこもりあれり
久(なれ)
こえそこいもかな
これなりまり
あくれよりなれ
そをむこれ

凡秩三 左近将仲忠
源宰相
中将



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

めつらしうもあるさまなれば
をさなうやとて

女のつまうちまくりて
川人のやうにてをみて乗
月よういとおもしろきに
侍従中将
侍従源中将
うたひすてうちうそぶきて
中納言
中納言
おのおのうたをよみけるを
とりのやうにあるみやこ
おもの四十九
おもの四十九
ぞいと
ぞいと
おくみやり



このことを
黄
白水
うちイ
左全
おもとりひきてくゝんとて
つゝくうちさゝれいひて
うやのねたのつゝくをうみて
てもいあくみやなくめり
とあれとさらにて
せまうしおほせとすてゝ
のさまうに

830
107

「今菓菊宴為第十六（ニナシ）巻名
あてそやうの事詳也」

ロ　庚午六廿四
タ　寺永三廿四
ハ　寺永七二
ホ　交回六十五

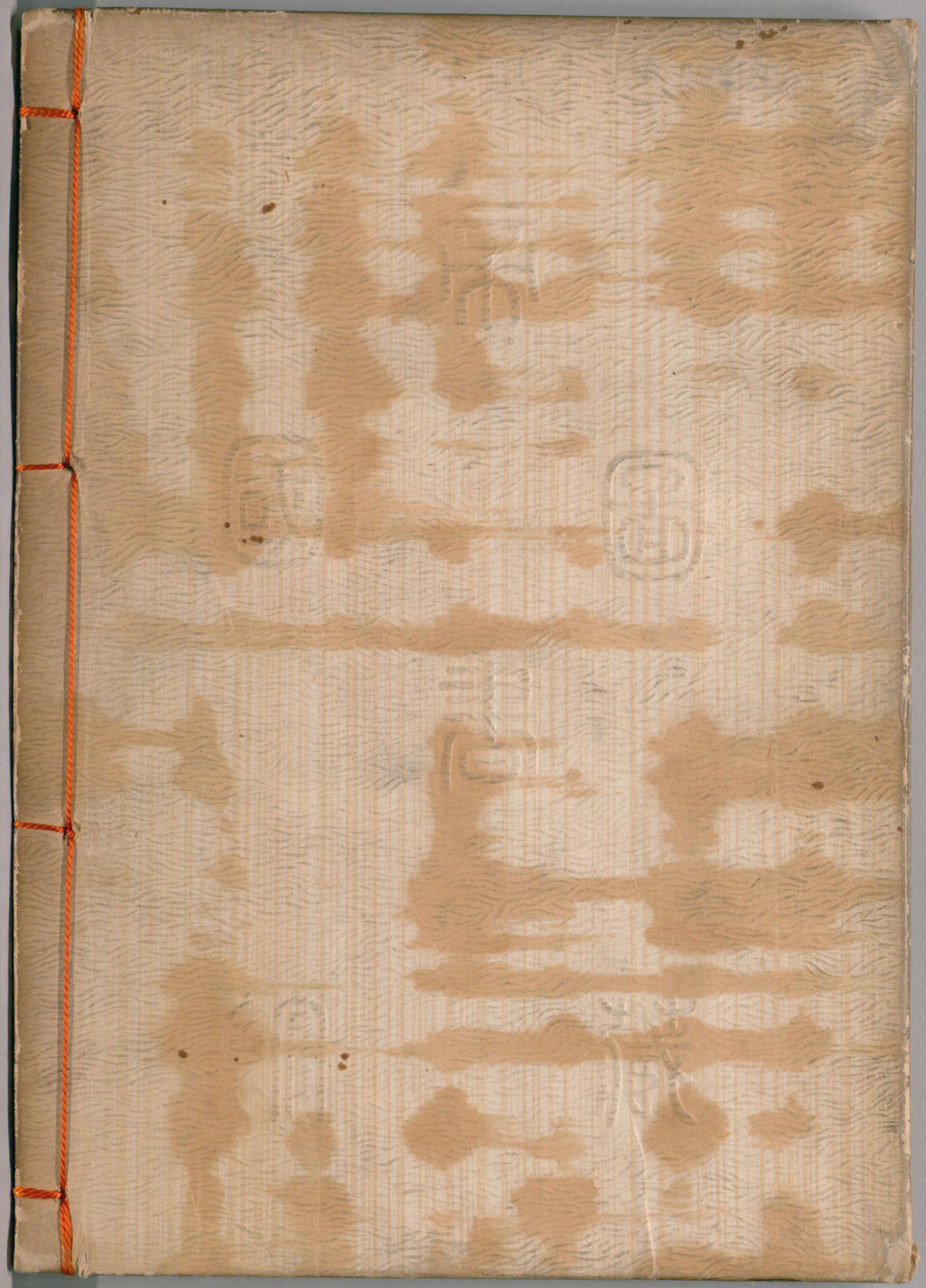
文久三年十一月廿五日以細井本一校了

横山由清

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

830
30
107

国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用